



石積み
直し棚田の
春待てり
豊明市 河合 満

千枚田の変遷

昭和二十年後半から

我々の幼い頃は、鞍掛山(周囲の山は無論は草刈り場で、春はゼンマイやワラビが生い茂り、田口線で街からワラビ狩りに大勢の人達が訪れ、鞍掛山でワラビやゼンマイを採る姿が連谷小学校の校庭からも見えた。ワラビやゼンマイを採ると大事な田んぼの肥料、干草が減るから「採るな」と看板を掲げたり、追い返したりした記憶もある。

稲刈りが終わると鞍掛山で干草を刈り、「ずんぼ」にして乾燥し、脱穀、初摺りが終わった頃には「ずんぼ」にして干された草を束ね、鉄策で途中、中継をしてそれぞれの田んぼに降ろした。その、大切な草で相撲を取ったり、スッコを作って泊まったりして遊び、親に怒鳴られたりしたことが思い出でもあり、風物詩でもあった。

レーヨンの開発される昭和二十年後半までは田畑の肥料のほとんどが野山の干し草に依存されていた。

た。その、レーヨンの開発が起因に化学肥料、農薬が開発、普及され、それまで田畑の肥料として依存されていた干草や牛馬の堆肥など有機肥料が化学肥料に変わり、山地の草刈り場がお役目ごめんとなった。

お役目ごめんの野山の有効活用(国土保全)に国の施策で杉松の植林が奨励された。その、謳い文句は「十五年で足場丸太が採れ、二十五年も経てば抜き切りでお勝手場ができ、四、五十年も経てば金の茶釜でお茶が飲める」、「金利5%の定期に預けるよりよっぽど得だ」とか甘い?言葉に我遅れ時と植林に精をだした。そして、カタクリやクマガイソウ、ハツクリ婆などが咲き誇り、自然いっぱい野山が森林と化してしまった。

成木した現在は木材の需要も低迷、お金にならない林木は抜き切りなど、森林管理もおろそかになり、そのほとんどが放置化され、下草も生えなく、降った雨も地下に浸透することなく表面排水化し、湧水も枯

渴する現状にある。

先日、久しぶりで千枚田を潤す鞍掛山に登った。その様は抜き切りなど手入れが全くされていなく、放置林化され、表土の露出した山肌を見て「ゾッ」とする思いであった。

地表がむきだしの状況



昭和三十年代は化学工業の発達から高度経済成長に突入、近隣の人達は我も我もと都市工場などへ動労力の供給として働きに出て現金

収入を得、豊かな時代になったと同時に「3ちゃん」(爺ちゃん、婆ちゃん、母ちゃん)農家になってしまった。

昭和四十六年、国は、米あまり対策の一環として減反施策が施行された。その時は、どの集落も大変な騒動を醸し出した。連夜、寄り合いを設け、「先祖の遺産を俺の代で無くすのは申し訳ない、絶対に減反は反対だ!」等々、村中が喧嘩づくで、最終的には急傾斜の野山側や「お前んとこは、息子がいい銭を取っとるから減反に協力せれ。」など物議を醸した。そして、行政の指導で休耕田には梅やシキミなどの花木が植えられた。

減反施策が施行されるまでは、千二百九十六枚の田んぼが作られていたが「あつと言う間」に三百七十三枚まで減少してしまった。現在は支援グループなどのおかげで四百二十枚が耕作されている。

保水力の豊かな山野が森林となり、木材需要の低迷からほとんどが放置林の状態で、降った雨も地下に浸透することなく流出し、湧水も減少していることから、現在、耕作されている水田(四百二十枚)を維持していくことが水騒動もなく、適正保全面積であるように思う。(舜)

冬耕が春を呼ぶ千枚田

二月十二日撮影



ありがとう教室

連谷小学校では、委員会活動の一環として校区のお世話になった方々に給食へお招きし、感謝の気持ちを表すとともに楽しくお話をする会を二月十九日から二十三日までの都合のよい日にご招待します。



ふるさと水と土基金全国研修会に参加して

二月一日～二日、群馬県の国立赤城青少年交流の家にて第十三回ふるさと水と土全国研修会へ主催：ふるさと保全ネットワーク(全国土地改良事業団体連合会) 協賛：ふるさと水と土保全対策本部(農林水産省農村振興局農村整備課)により開催され、「体験活動指導者養成コース」に愛知県ふるさと指導員の小山舜二が受講しました。

研修会の目的：農地や農業用水を保全活用するための地域住民活動の活性化に関する推進指導、助言を行う「ふるさと水と土指導員」の育成、能力の向上

研修会の目標：体験的に学ぶこと(体験からふりかえる) 楽しみながら学ぶこと(学びかたを学ぶ) お互いから学ぶこと(相互啓発・相互学習)などを基本に、指導者としての基礎知識を修得しました。

余談：驚いたことに、赤城山全山が松食い虫の被害で壊滅状態であった。聞くところによると、五、六十年前に国の奨励で植林された人工林であり、その対策にボランティアを投入したりして大変苦慮している様子であった。

近況

久しぶりで石井里津子ルポライターの声を聞いた。嫌な予感でしたが案の定、ライステラス掲載の原稿依頼だ！石井ルポは当地でサミット開催関連の記事収集のため来訪、お助け隊や保存会の連中と千枚田を散策、地酒を酌み交わした親しい仲だ。あれから三年、また、お腹に赤ちゃんがいるようだ。茂木のサミットで逢えるのかなあ、逢えないかもなあ・・・微妙！



お知らせ

「四谷の千枚田だより」が今月(42号)より、ふるさと指導員活動支援(ふるさと水と土基金)の一環としてカラー印刷され、皆さんのお手元に配布されることになりました。

けなげな唄

大林のむくろろぎの近くに不動様が祀られておるらあ・・・ふん、男滝と女滝があるとこずらあ・・・昭和三十年頃まじやあ不動様のお祭りん時にやあ露天商が何軒も出るほど賑やかだったぞん・・・あの、お滝はわしん等がガキの頃は滝を落ちる水が少ないもんで「三升滝」と云ったが、今じゃあ山上滝になっ

とるだのん・・・ふん、地図をみると山上になつとるのん。きつと、明治の終わり頃に測量した時に地元の人衆に聞いたのを間違えて付けちゃ



つたずらあのん・・・そうそう、「ほうぼの峠」を「ほのぼの峠」って記しておるようなもんだのん・・・(ほうぼの峠は、海老からもどこからも見え、三角点が設置されている)

行 平成十九年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二